

技術資料

アリ科

分類 膜翅目 アリ科

学名 Formicidae

英名 Ants



■解説¹⁾

日本には、150種ほどのアリが知られており、住環境の周辺には10種（東京）ないし30種（九州）程度のアリが見られる。アリは、社会生活を営む昆虫類で、基本的には生殖虫である女王、オスおよび職アリ（働きアリ：♀）で構成される。女王とオスは、生殖のため、結婚飛行を行い、女王はその後、産卵を行う。オスは、結婚飛行を終えた後に死亡する。職アリは、食と住と養育をつかさどる。社会生活の様式として、アブラムシを保護して家畜的に利用するもの、菌を培養して食物を生産するもの、アリの巣から働きアリを強奪してきて奴隷として利用するものなど、きわめて多様性に富む。

アリは、種類によっては、毒針が発達しており、蟻酸を含む毒液をふりかける（トビイロシリアゲアリ）、毒液を出して刺す（オオハリアリ）などの害をもたらす。また、建物に、食物をもとめて侵入し、不快感を与えるだけでなく、食品を加害することがある。

■体長¹⁾

卵：－

幼虫：－

蛹：－

成虫：1.3～1.6mm（ヒメアリ 働アリ）

2mm（イエヒメアリ 働アリ）

2～2.5mm（ルリアリ 働アリ）

7～12mm（クオオアリ 働アリ）

■産卵数

産卵数/生涯：－

■ライフサイクル²⁾

卵：25～30日（クオオアリ 働アリ）

幼虫：10～15日（クオオアリ 働アリ）

蛹：約30日（クオオアリ 働アリ）

成虫：－

■発育零点（発育停止温度）

－

【参考文献】

1) 松崎沙和子・武衛和雄：都市害虫百科、朝倉書店（1993）

2) 学研の写真用図鑑 アリ、学習研究所（2003）